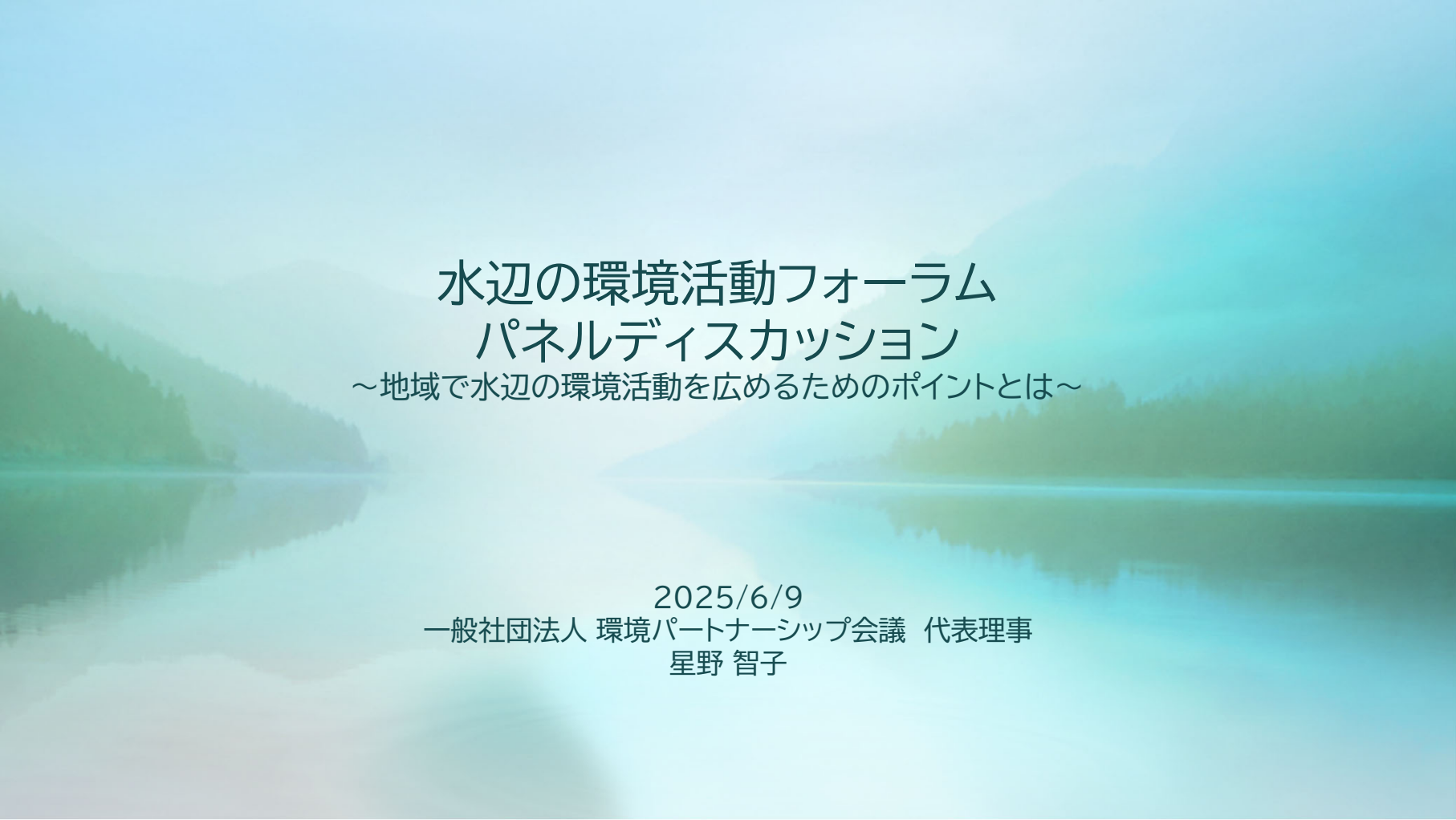


The background of the slide is a soft, misty landscape. It features rolling hills and mountains in the distance, partially obscured by a light blue and green haze. In the foreground, a calm body of water reflects the surrounding scenery. The overall color palette is dominated by various shades of teal, light blue, and pale green, creating a serene and natural atmosphere.

水辺の環境活動フォーラム パネルディスカッション

～地域で水辺の環境活動を広めるためのポイントとは～

2025/6/9
一般社団法人 環境パートナーシップ会議 代表理事
星野 智子

環境パートナーシップ会議(EPC)

環境パートナーシップ会議(EPC)は、地域の環境団体や、政策提言を行う環境NGOを支援し、企業や政府とつなぐこと(パートナーシップ)によって、課題を解決に導く新しい力を生み出すことを目的に活動している組織です。
(SDGs市民社会ネットワーク、日本NPOセンター正会員団体)

設立:2006年12月

職員数:18名

住所:東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F

URL:<http://www.epc.or.jp/>

<EPCの主な事業>

- 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営
- ウェブ上フォーラム『サステナビリティCSOフォーラム』の運営
- 企業・自治体のボランティア・社会貢献活動のコーディネート
- 企業のCSR業務、自治体環境政策のコンサルテーション
- 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)事務局
- 持続可能な開発のための教育(ESD)促進事業
- 政府の基金設置・管理事業

SDGsメールマガジンを隔月で発行しています。

サステナビリティCSOフォーラム

<http://sus-cso.com/>

<星野智子 自己紹介>

2002年ヨハネスブルグ・サミット、「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」、2010年生物多様性COP10、などにおける市民活動のサポートに従事。2003年より地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営に参加。2012年SDGs策定プロセスが始まって以降、多様なセクターとのパートナーシップやSDGs、ボランティア、ライフスタイル等をテーマとした講演や普及活動を行っている。現在(一社)SDGs市民社会ネットワーク理事、(一社)海外環境協力センター理事、(一財)日本自然保護協会評議員、(一社)日本サステナブル・ラベル協会監事、など多岐の市民活動に関わる。



<パートナーシップ構築に向けた対話の場づくり>

NGOと政府の意見交換会→



環境大臣への提言書提出↓



NGOミーティング
4



地球環境パートナーシッププラザ

Global Environment Outreach Centre (GEOC:ジオック)

<http://www.geoc.jp>

- 1996年10月に設立 地球環境に関する環境情報とパートナーシップの拠点
(渋谷区 国連大学1F)
- 環境省、国連大学、NPOの民間スタッフが共同で運営。
- NPO向け事業プロセス支援、企業や行政の環境取組みや地域づくり支援、環境ビジネスモデル事業、環境団体のイベント情報ホームページ、メールマガジン発行、全国EPOネットワーク、環境政策に関するセミナー・シンポジウムの企画・開催、国連機関と連携した国際プロジェクトの実施などを行っています。
- 開館時間:火～金曜日 10:00～18:00 土曜日は17:00まで



展示



セミナー



研究・調査



ライブラリー

全国の環境パートナーシップオフィス(EPO)のネットワーク

EPOネットワークでは、全国の**環境NPO情報**と、**協働取組事例**が、共有されています。**協働取組を推進**する機関である**EPO**は**全国8カ所**あり、各EPOに常駐する**専門スタッフ**が、協働取組のコーディネートをしています。



環境パートナーシップで 持続可能な地域の実現を目指す

【ポイント】

- ①持続可能な地域は、個々の力量だけでは実現不可能
- ②持続可能な地域実現に向けたプロセスには、様々な困難が存在(現実とのギャップ、リソース不足、地域内の軋轢など)
- ③持続可能な地域実現に向けたプロセスは、決して平坦ではないからこそ存在するEPO

地域の現状



悩みながら一緒に模索
「ありたい地域」へナビ



中立的な立場で話を聞く
参考情報のシェア



対話の場作り
ステークホルダーを巻き込む

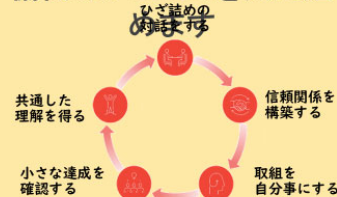


EPO/GE
OC

持続可能な地域 ～地域循環共生圏の 創造～



協働のプロセスを共に進めよう



パートナーシップで大切なこと

パートナーシップをつくっていく上では、調整的な役割(中間支援機能)を意識して動く人がいることが大切です。

1. プロセス支援

課題を解決するには「その道のプロ」だけではなく、客観的な視点をもって「変化を起こすこと」のプロが必要。中立的にプロセスに関わることで、よりスムーズに変化が促される。

2. 資源の連結

資金、知見、技術など、変革に関わるあらゆる資源を動員する必要がある。協働取組の内部と外部に存在する資源を発掘し、それを有機的に結びつけることが求められる。

中間支援の4つの役割

3. 問題解決の提示

活動の推進者が、自分のアイデアに周囲を含ませてしまうことがある。関係者全員の関心や要望を理解した上でアイデアの枠を広げ、変化のために必要な「問い」を明らかにする。

4. 変革の促進

これまでのやり方に捉われず、新しいことに挑戦する勇気を持つ。熟練者が若い世代の意見を聴いて新しい視点を取り入れるなど、大切な物を守りつつ、変化も受け入れる。

参考: 「The Change Agent's Guide」Educational Technology Publications (1995年)

私たちができること(市民・NPOに伝えていること)

多様な主体と

- 地域の全員に関わること。
- 役割分担。資源を出し合う。

SDGs

目標16:情報・司法への
アクセス

目標17:官民・市民社会の
パートナーシップ推進

パートナーシップで

- 1人、1組織、1セクターでは解決できない
課題がある。
- (→相乗効果を上げていかないと間に合わない)

これに取り組むことが
ESD(Education for Sustainable
Development:持続可能な開発のための教育)に。

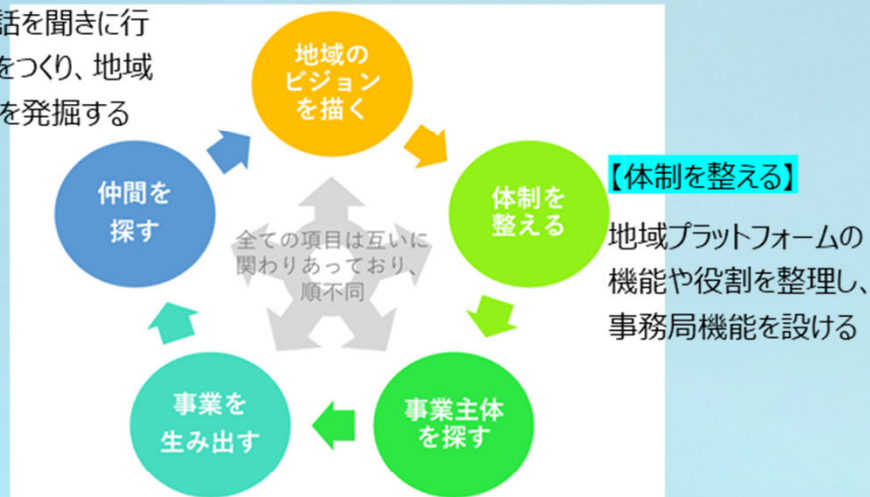


【地域のビジョンを描く】

地域の資源や課題とビジョンの構造を
明確化し、地域のコンセプトを描く

【仲間を探す】

地域の人の話を聞きに行く
ことで仲間をつくり、地域
課題や資源を発掘する



【体制を整える】

地域プラットフォームの
機能や役割を整理し、
事務局機能を設ける

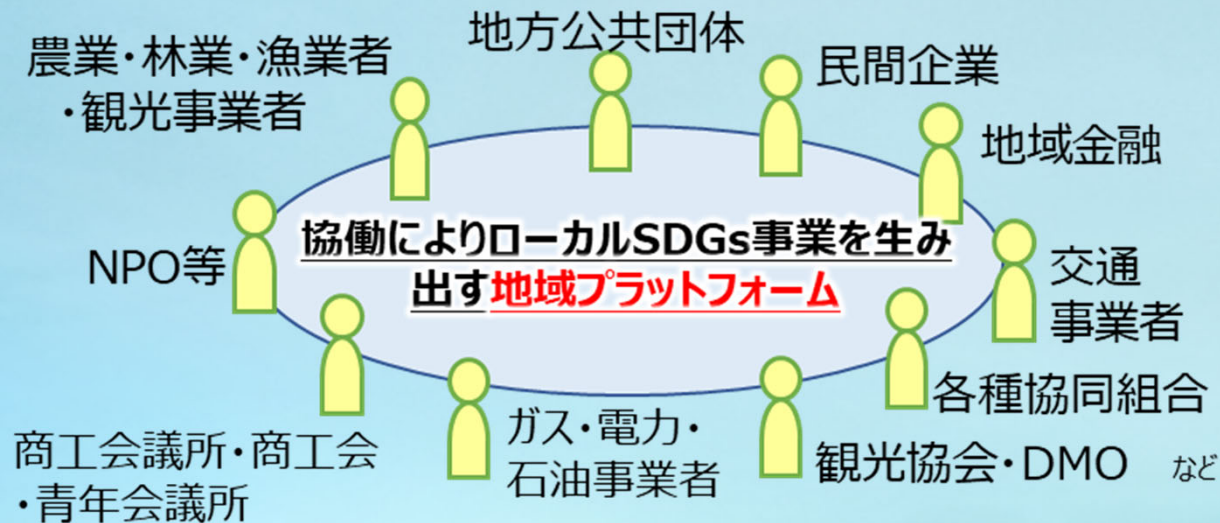
【事業主体を探す・事業を生み出す】

地域のビジョンを実現するためのローカルSDGs事業を考えるとともに、
事業実施主体を発掘し、実施主体が事業を実施するのを応援する

地域循環共生圏づくりのアクションサイクル・モデル

出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

様々なステークホルダーとのパートナーシップを



国連でも重要視されるステークホルダー連携

MGoS = Major Groups and other Stakeholders

